グループホーム八幡

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基本としながら自分たちの言葉で、日々の介護となる理念を作り上げている。	○	地域活動に参加・交流を通して地域との関係を深めている。
2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を理解しており、それを念頭において業務にあたっている。	○	理念をもっと掘り下げた内容で理解できるように、全職員に周知を図る。
3	**○家族や地域への理念の浸透** 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	広報誌等や、毎年地域との盆踊り大会にお誘いしている。散歩は敷地内にとどまらず、地域の人と出会える場所まで出向いている。	○	町内会長や運営推進会議を通して、ホームに足を踏み入れる機会を増やしてほしいとお願いしている。地域の町内会議への参加も増やしている。
2．地域との支えあい				
4	**○隣近所とのつきあい** 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営推進会議や地域の盆踊りの際に、ホームに遊びにきていただけるようにお願いをしている。	○	保育園の園児に散歩の途中、立ち寄っていただいたり、市民センター行事に参加している。
5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会議には入居者も参加している。その他、小学校の運動会・保育園の夕涼み会・作品展等にも参加している。	○	そこで同席した方々に、ホームに足を運んでくださいとお願いしている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	**○事業所の力を活かした地域貢献** 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎年、盆踊り会場の設営・片付けに職員が参加している。	○	町内会議等より、、地域の高齢者に役立つしくみを築いていきたい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営推進会議で委員の皆様には自己評価・外部評価をお渡ししている。ホーム入り口に自己評価・外部評価を置いており、訪問者が自由に手にとれるようにしている。	○	ご家族にも配布できる状況を作る。(請求書と一緒にお渡しするなど)
8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1度のペースで委員会を開催している。そこでホームでの日常生活、職員の研修内容などを報告している。そこで出た意見を取り入れる努力をしている。	○	委員会では意見というより、評価の意見が多い。最近の会議では、アドバイスが多くなった。サービスの向上に繋げている。
9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターに入居者と共に出向いたり、市民センターの行事にも参加している。	○	統括支援センター・包括支援センターとの連携の中で入居された方や見学の方も増えている。
10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員が研修を受講し、それを全職員に報告している。	○	研修会があれば積極的に参加したい。
11	**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に参加、その他職員会議の際に虐待・身体拘束廃止の勉強会を実施している。	○	ボランティアや実習の受け入れ、地域社会との交流を通じて、意識改革を図っている。小さな傷・あざを見逃さずに、発見ごとに管理者・リスクマネジャーに報告している。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
12	**○契約に関する説明と納得** 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を十分にとって、説明を行なっている。解約時にも、手続き（とくに返還金について）は文書を通して詳しく説明を行なっている。	○	今後もお互いが十分納得いくまで、時間を作って説明を行なっていきたい。
13	**○運営に関する利用者意見の反映** 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口に「ご意見箱」を設置し、年長者の里オンブズマン委員に伝わるしくみになっている。	○	現在までに、投書の報告なし。オンブズマンには郵送でも可能であることの周知徹底を図る。入居者との会話の中で希望、不満などが垣間見える。そのような小さな意見も取り入れている。
14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月初めに、入居者のご様子を記した手紙をご家族に送付している。ホームでの暮らしぶりが分かると好評である。その他、日常生活で変化があれば、ケアマネを中心に電話報告も行っている。	○	入居者の小さな変化も見逃さずに、家族に報告している。
15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口に「ご意見箱」を設置し、年長者の里オンブズマン委員に伝わるしくみになっている。	○	文書でなくとも、会話の中で不満・意見を取り入れて改善・活用できるようにしたい。
16	**○運営に関する職員意見の反映** 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回職員会議を開いている。事前にアンケートを取り、それに基づいて話し合いを行なっている。	○	管理者・リーダー職員は、職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努める。
17	**○柔軟な対応に向けた勤務調整** 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	以前は季節や入居者の状態に応じて、勤務時間の変更を行っていた。入浴の時間・散歩の時間は流動的にしている。	○	勤務時間を固定せずに、入居者の生活リズムに合わせた勤務時間にする。
18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に1度、人事異動がある。毎年2～3名の入れ代わりがあり、入居者・ご家族には説明・報告している。	○	一身上の都合による退職は仕方ないが、人事異動は必要最小限、入居者・ご家族に影響がない程度で行ないたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	**○人権の尊重** 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	資格はヘルパー2級以上を必須としている。性別・年齢は問うていない。25歳から59歳までが勤務している。	○	男性職員の少ない職場であるため、男性の採用を行ないたい。
20	**○人権教育・啓発活動** 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	採用時に幹部職員によるオリエンテーションを行なっている。	○	採用時だけでなく、随時取組んでいる。
21	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を積極的に参加できるように計画している。内部研修が行なわれるときは全員参加を条件としている。	○	今以上に外部研修の参加を積極的にしていきたい。
22	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の訪問、問い合わせがある。職員が他施設を訪問する機会を増やす。福祉大学の助手が毎月1回入居者の様子を観察に来ている。	○	職員が他施設に出向く機会を増やし、他施設のいいところを取り入れるようにしたい。
23	**○職員のストレス軽減に向けた取り組み** 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	必要に応じて個別面談を行なっている。	○	月に1度は個人面談を実施していきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	**○向上心を持って働き続けるための取り組み** 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務態度・勤務年数によって時給のアップをしている。正職員への登用も積極的に行なっている。	○	勤務態度のすばらしい職員を、どんどん評価できるしくみを作っていきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	**○初期に築く本人との信頼関係** 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	毎日、入居者に傾聴する時間を作っている。その言葉から希望・不満を把握できるようにしている。	○	ケアプランにも「傾聴」を取り入れていく。
26	**○初期に築く家族との信頼関係** 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約前までは管理者・リーダーが窓口となっているが、入居後は、それぞれの担当職員を中心に、面会時に話をする時間を設けている。	○	業務優先になって話をする時間を作れない時がある。話をする時間を必ず作りたい。
27	**○初期対応の見極めと支援** 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームは複合施設であるため、必要に応じて他施設の利用も視野に入れている。	○	現在のところそのような状況になったことはないが、他事業所とのネットワークを構築し、入居者・ご家族が安心できるホームを目指す。
28	**○馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度も足を運んでいただき、慣れた頃に入居の手続きをするようにしている。	○	入居を急がせるのではなく、入居希望者・ご家族に見極めていただいてから、入居できるホームでありたい。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人がどういう状況に置かれたときに本音を話したり、笑ったりするかを観察している。本人が他入居者や職員を注意した内容などを反省の糧にしている。	○	入居者から学ぶことは多い。そのような場面に遭遇したときは、素直に受け入れている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	**○本人を共に支えあう家族との関係** 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの出来事、本人の小さな出来事などを随時報告している。また、レクレーション時には職員・ご家族・入居者で出かける企画を立てている。	○	ご家族の力なしではホームは成り立たない。ご家族にも積極的に協力を求めていく。
31	**○本人と家族のよりよい関係に向けた支援** これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	言葉にしない感情を汲み取る努力をしている。負担のない程度に面会・外出をお願いしている。	○	同居では上手くいかなかったが、離れて暮らし始めると、お互いが良い関係になったという話をよく耳にする。
32	**○馴染みの人や場との関係継続の支援** 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居する前の施設へ出向き、職員と会話している。入居者のヘルパーをされていた方も、面会に来てくださる。	○	地元ではない入居者がいるが、時々は馴染みの場所に出かける機会をつくりたい。
33	**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士で馴染みの関係ができている。グループ分けはしていないが、自然とグループができている。孤立するタイプの方には職員が援助している。	○	女性の入居者が中心であるが、男性が孤立しないように支援している。
34	**○関係を断ち切らない取り組み** サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	数ヶ月に1度電話で連絡を取っている。その際はホームに遊びに来てくださるようにお願いしている。	○	その方の自宅付近を通る際は、顔を出すなどして付き合いが途切れないようにしたい。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**				
35	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活パターン、ふとした瞬間に笑顔を見せる場面がある。そのような場面は記事に残しており、職員が共有できるようにしている。	○	本人が希望を示しにくい方が多い。家族の希望を受け入れることが多かったが、今後本人の希望も大いに取り入れたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に一応の生活暦を伺い、入居されてから随時お話させていただく時間を頂き、そこで生活暦等の把握に努めている。	○	他事業所からの利用の場合、そこの担当者とつながりが希薄であるため、横の関係作りが必要である。
37	**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の心身状況は日々変化しているという認識をもち介護している。その日の状況によってトイレの時間を変更したり、外出などを行なっている。	○	できることはやっていただいている（食器洗浄・掃除等）。今後もできることはやっていただけるように援助し、無理なことは無理強いしない。
38	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	3ヵ月ごとにサービス担当者会議を開催。本人・ご家族の希望などを聴くようにしている。会議時だけでなく、日頃の会話の中からも必要性を見出せるようにしている。	○	1人1人に応じたプランの作成に努めているが、アイデアに富んでいないものがある。アイデアのあるプランにしたい。
39	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月ごとにプランの更新・変更を行なっている。期間中に入院など状態に変化があった場合は、期間中であってもプランを見直ししている。しかし、小さな変化ではプランの変更はしていない。入院中も看護師などに聞き取りをしている。	○	本人・ご家族の要望・意見を十分に取り入れるように配慮している。
40	**○個別の記録と実践への反映** 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな発言や態度などを記事にしている。	○	記事の内容が濃いすぎる面もあるため簡素化を図りたいが、現在の記録のほうがご家族に日常生活を報告するには分かりやすい。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
41	**○事業所の多機能性を活かした支援** 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設であるため、ホームの職員で落ち着かない場合は、他施設の職員に声をかけていただいたり、デイサービスのレクなどに参加している。	○	入院してホームに帰ってくるには医療面で不安がある場合は、老人保健施設を紹介することがあるが、これまでワンクッションを置かずに直接ホームに帰って来られる。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	**○地域資源との協働** 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居前に利用していたヘルパーの方が頻繁に面会に来られる。一緒に出かけることもある。ボランティアの方もベランダの園芸に協力していただき、今年はトマトや胡瓜を収穫した。	○	「母を外に出さないでほしい。人の目にさらさないでほしい。」と言われる方もいるため、外部との接触が困難な方もいる。
43	**○他のサービスの活用支援** 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域統括支援センターの職員からはアドバイスをいただいている。	○	ネットワークの構築から努力していきたい。
44	**○地域包括支援センターとの協働** 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の中で地域包括支援センターの職員に相談することがある。	○	勉強不足の分野であるため知識を身に付けるために研修会等に参加したい。
45	**○かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から現在の主治医（たつのおとしごクリニック）にかかっている方がほとんどである。他院にかかりたい場合は医師に紹介してもらっている。	○	入居者が他院の主治医を希望する場合は、主治医を変更できるように、たつのおとしご医師に相談している。
46	**○認知症の専門医等の受診支援** 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医は認知症の専門である。	○	疑問や不安な点は主治医に相談して、アドバイスをもらっている。
47	**○看護職との協働** 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当法人クリニックと24時間提携している。健康面、医療面、ケアプラン等に対して常時相談をしている。	○	週に1回看護師が入居者の様子を観察にきている。2週に1回は医師が往診に来る。その際にも、支援してもらっている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	**○早期退院に向けた医療機関との協働** 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	計画作成担当者が病院担当者と連携をとっている。毎日誰かしら交代で病院に足を運び、情報交換をしている。	○	入院した場合、職員の誰かしらが毎日交代で見舞いに行き、状態を全職員に知らせている。
49	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・医師とどこまでグループホームでの介護ができるかを話あっている。	○	入院が長期にわたる場合に限り話し合いの場を設けている。早い段階で重度化した場合の方針を決めるようにしたい。
50	**○重度化や終末期に向けたチームでの支援** 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族・医師とホームでどこまで介護できるかを話すようにしている。	○	重度化した場合、医師と連携し、より良いケアができる方向を探している。
51	**○住み替え時の協働によるダメージの防止** 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームでの生活の内容は十分に転居先へ伝えている。しかし、ほとんどの場合が病院というケースが多いため、ホームでの生活をそのまま継続するというのは難しい。	○	文書による伝達が主であるため、会って情報を交換できるようにしたい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

52	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マナーアップ研修は全員が受講済み。会議や管理者から随時注意を行なっている。個人情報保護については、法人の規程に則って指導している。	○	誇りやプライバシーの配慮を前提に、言葉かけも18名いれば18名の対応があり、相手の立場になって対応できるように努めている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中でできることとできないこと、やりたいことを見極めている。本人尊重を念頭に掲げている。	○	自尊心を傷付けない介護をこれからも心がけていく。
54	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の食事の時間・入浴時間等で職員の勤務時間を決めている。夏場・冬場で勤務時間を変更することもあったが現在はない。	○	入居者の生活のペースに合わせて柔軟に対応している。今後も続けていく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望む美容院へは一部の方を除いて行っていない。レクレーションの外出をかねてショッピングセンター内の理美容に行っている。好評である。外出を希望されない方は施設内の出張理美容に行っている。	○	希望される方がいれば、行きつけの場所にいけるように援助したい。
56	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・片付け・食器洗浄は職員と入居者が一緒に行い、台拭き・盆拭きは入居者が行なっている。入居者が主体となって行なえるように援助している。	○	当ホームでは食事作りは行なっていない。時折食事やおやつ等を作る機会を設けているが、回数が少ないため頻度を増やしたい。
57	**○本人の嗜好の支援** 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒・飲み物・おやつは一緒に買い物に行ったり、ご家族に注文している。現在のところたばこを希望された方はいない。	○	体重制限をしている方でも低カロリーのおやつをお願いしている。しかし、週に1回以上はカロリーを気にせずお好きなものをお出ししている。
58	**○気持よい排泄の支援** 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	毎月担当者が中心となって、オムツの種類の検討を行なっている。業者とも連携し、吸収量がさほど変わらず、値段の安いものを購入している。一人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握しており、可能な限り失敗がないように援助している。	○	自尊心を傷付けないように援助している。水分摂取量やサインを見逃さないように尽力している。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	**○入浴を楽しむことができる支援** 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯を9時から19時に設定している。午前中に入られる方もいれば、夕方に入られる方もいる。便失禁がひどい場合などはその都度入浴している。(夜間は除く)	○	近くに温泉施設があるため、そのような場所で職員・入居者がふれあいの場をつくれればと思っている。
60	**○安眠や休息の支援** 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の眠いサイン・疲れたサインなどを把握しており、ソファーへ誘導したり、居室にお誘いしている。	○	興奮されている方は眠気からくる場合もあるため、休息を促がしている。目覚めた頃にはすっかり落ち着かれているというパターンが多い。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	**○役割、楽しみごと、気晴らしの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	皆さん外出や外食を希望される方が多い。希望された場合はドライブや散歩に出かけている。	○	結婚式の介添えをされていた方は、他の方の着替えなどを手伝いたそうにされる時がある。そのような場合は、本人に許可を得て一緒に更衣を行なうようにしている。
62	**○お金の所持や使うことの支援** 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度を所持されている方が1名いる。外食や買い物に行く際はご家族からお金を預かり、外出している。	○	金銭を管理することが難しい方が多い。数百円でも本人が持てるように援助したい。
63	**○日常的な外出支援** 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望されればドライブや散歩に出かけている。雨の日は館内を散歩している。	○	公用で市役所や区役所に出かける際も、必ず誰かしら一緒に出かけるようにしている。
64	**○普段行けない場所への外出支援** 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生会をかねて外食や外出を行なっている。	○	もりフォーラムや起業祭などは家族もお誘いして、職員と出かけている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	**○電話や手紙の支援** 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをされている方が数名。電話を希望される場合、居室に設置されている方はそこから、ない方はホームの電話をお貸ししている。	○	電話を希望される方は難聴である方が多いため、結局は職員が代弁している。
66	**○家族や馴染みの人の訪問支援** 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	20時から6時の間の訪問を希望される場合は事前にホームへ連絡していただくようにしている。それ以外の日中は気軽に立ち寄れるようにしている。宿泊のケースはあるが、夜間の面会はない。	○	友人の訪問が少ない。気軽に立ち寄れるように配慮していく。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	**○身体拘束をしないケアの実践** 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1ヶ月に1度職員会議の際に勉強会を実施している。	○	管理者・計画作成担当者中心となり、身体拘束に触れるのではないかという行為を検討して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。
68	**○鍵をかけないケアの実践** 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけない。外出される際に、施錠を希望される方は鍵をかけている。ベランダ側のドアもほとんどの場合開放している。	○	ホーム入り口も施錠はしていない。夜間のみ防犯のため施錠している。(20時～6時)
69	**○利用者の安全確認** 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごされている方で危険を伴いそうな場合は、本人の許可を頂き開放したり、職員が一緒に過ごしている。	○	夜間は居室玄関扉は閉めているが施錠はしていない。入居時に夜間の施錠はご遠慮いただいている。
70	**○注意の必要な物品の保管・管理** 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険だと言い何でも排除してしまうと、全く生活感がなくなってしまう。お1人お1人の能力を見極めて、本人管理をしている。	○	ライター・刃物や尖ったものは預かっているが、それ以外は本人が管理されている方もいる。
71	**○事故防止のための取り組み** 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	小さな事故「ヒヤリはっと」を報告し、職員全員で共有している。	○	「ヒヤリはっと」等、職員会議で検討し、事故防止に繋げている。もっと知識を深めるために、事故・火災についてのレポート提出などを考えている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が応急手当ができる。研修も全員が受けている。	○	応急手当普及士の資格取得に努めたい。
73	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災意識は常に持っている。消防訓練は年に3回行なっている。年に1回地域と合同では行なっている。	○	災害時には地域の協力が得られるようためにも地域と合同の訓練が必要である。町内会議の中でも、検討していきたい。
74	**○リスク対応に関する家族等との話し合い** 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	足のしびれを訴えたり、処方されている薬が変わった場合などご家族に連絡し、転倒の可能性があることを伝えている。	○	数年前まで職員が転倒を恐れて抑圧的になっていたが、身体拘束や虐待の勉強を通し、転倒を回避するためにさりげなく付き添うなどしている。お菓子をお出しするときも乾燥剤が入っていないか、床が濡れていないかなど確認をしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	**○体調変化の早期発見と対応** 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常時、入居者の顔色を見ている。調子の良いときと悪い場合の顔色や態度、尿・便の色などを把握しているため、異変があれば即座に医師や看護師に連絡している。夜間も、急変の可能性がある方は巡回を入念に行い、バイタルをチェックしている。	○	新人職員にも早期発見ができるように、常日頃の入居者の状態を把握できるようにさせている。
76	**○服薬支援** 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解している。わからない場合や不安な点は医師・看護師に確認している。	○	副作用が疑われる場合は医師・看護師に連絡している。
77	**○便秘の予防と対応** 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	緩下剤はなるべく使用しないようにしている。バナナを食べて出易い方はバナナを、牛乳を飲んで出易い方は牛乳を勧め、長距離を歩くと出易い方は散歩を、車に乗ると出易い方はドライブに出かけている。	○	今後も薬に頼らずに援助していく。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	**○口腔内の清潔保持** 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	お一人でされている方も職員がチェックしている。頬に残渣物がたまり易い方はガーゼで拭き取っている。	○	口腔から肺炎になる可能性もあるため、口腔内は常に清潔を心がけている。
79	**○栄養摂取や水分確保の支援** 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の気になるかは日誌に記録している。一般的には食事中に菓子を出すのは違和感があるかもしれないが、食事の進まない方に菓子→飯→菓子→副食という風にすると、食欲が増すことがある。その方の摂取パターンを把握している。	○	夏場は水分摂取を重視している。飲むばかりでは飽きる表情をむせられるので、ご飯を水を多くして炊いたり、ゼリーを作るなどしている。
80	**○感染症予防** 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	内部研修会を実施している。毎年、インフルエンザは職員・入居者共に全員が接種している。手洗い・うがいをはじめ、入浴時には足の指を入念に洗う・乾かす、靴は清潔にしておく、洗濯は個別で洗うこととしている。	○	感染症予防マニュアルあり。職員熟読している。
81	**○食材の管理** 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の研修にも参加。手洗い・うがいの徹底はもちろん、週に1度はキッチン回りの消毒、食器の消毒をしている。	○	夏は食中毒、冬はノロウィルスの流行するなど、年間を通して何らかの病気が流行することを職員全員が認識している。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**				
82	**○安心して出入りできる玄関まわりの工夫** 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム入り口には花を飾って、優しげな雰囲気を作っている。	○	施設入り口には花を栽培しており、明るい雰囲気になっている。玄関の事務職員も明るくにこやかに挨拶をしている。
83	**○居心地のよい共用空間づくり** 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の声のトーンは抑え気味に、切れた電球があれば即座に取替え、汚れればすぐに掃除をしている。西日対策としてすだれを使用。	○	テレビの音があるだけで騒々しいことがあるので、そのような場合はラジオを聴いたり、音楽を聴いたりしている。職員も走り回ってバタバタしないように注意している。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が居場所作りをしなくても、入居者同士で居場所ができている。	○	お一人で動かれない方は職員を介して、皆さんと過ごせるようにしている。
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用されていた家具等を持ち込んでいただている。極力新調するのは避けていただいている。写真や音楽など取り扱いに危険を有するもの以外は認めている。	○	布団を使用されていた方は、生活スタイルを崩さないためにも布団を使用いただいている。
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房の風に敏感であるため、間欠的に空調を利用している。汚物は速やかに処理している。ホーム内には臭い対策のためオゾン装置が設置されている。	○	入居者の表情や態度で温度調節をしている。換気にも気を配っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内には手すり等はないが、手すり代わりになるようにタンスの位置を工夫している。	○	混乱を避けるためにも、必要不可欠な居室の模様替えは行なわないようにしている。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗は絶対に責めずに、さりげなくフォローしている。できることはやっていただき、できないことは無理にはさせていない。	○	できることとできないことを見極め、本人のやる気を見出すことも職員の大事な役割である。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには花や野菜を飼育している。また、近くの広場には入居者が植えたビワがあり、それを目的に散歩に出かけている。	○	西日対策によしずを使用。「懐かしいね。」と好評である。今年もサツマ芋を植えているので、芋掘り大会を計画している。昨年も好評であった。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居を申し込みされた方にいつもお話しているのが、医療機関との連携である。急変時にはクリニックをすぐに受診でき、夜間・休日の場合も医師・看護師からの指示を仰ぐことができる。午前中を中心に入浴時間をもうけているが、天気や入居者のペースに合わせ、夜間7時まで入浴可能としている。併設施設に理美容サービスがあるが、極力利用せずに、外の理美容に出かけている。外出を希望される方が多い事と地域の方とのふれあいも兼ねて散歩に出かけることを心掛けている。福祉用具の購入は、ご家族や職員が決めるのではなく、入居者本人に色を選んでいただいたりして、好みを十分に取り入れて利う。また、レクレーションとして、ご家族同伴の催しものを企画し、公園にて弁当を食べたり、外食に出かけている。現在、男性入居者が1名しかおられない。待機者の中にも男性はいないが、もう一人、二人は男性を入居させたいと思っている。また、入院されたときは、毎日職員の誰かがお見舞いに行くようにして、入院中の状況の把握、家族・病院との連携をとるようにしている。そして何より、入居者が職員の顔を忘れないようにとの願いを込めて病院に足しげく通っている。